

### 第3章 流域の社会状況

#### 3 - 1 土地利用

松浦川流域内の土地利用面積の割合は、山地等が 84%、水田や畑地等の農地が 15%、宅地等の市街地が 1%となっている。

宅地等の市街地は松浦川下流の唐津市に集中しており、唐津市を中心として国道や JR、西九州自動車道（整備中）などの整備がなされ、この地域における社会・経済・文化の基盤をなしている。

また佐賀県内の 6 つの県立自然公園のうち、3 つが松浦川流域内にまたがり、河口域は玄海国定公園を有しており、自然が豊かな流域である。

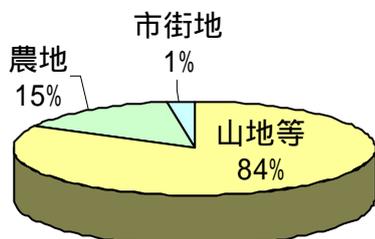


図 3- 1 松浦川土地面積割合図



【松浦川河口部と唐津市街】



図 3- 2 佐賀県内の自然公園と松浦川流域内の自然公園

中上流部では、山間平地で水田や田畑等の農地利用がなされている。主な利用は稲作であるが、河川改修の進捗にともなう洪水氾濫の減少により、ハウス栽培などの高度な農地利用が進んでいる。



【松浦川 25k 川西橋付近、山間部の田畑風景】



【松浦川 鳥海川合流点付近、山間部の田畑風景】

### 3 - 2 人 口

流域内の主要な市である唐津市の人口は約 13 万人であり、県内第 2 位の人口を誇る。

松浦川流域内の人口は約 10 万人で、人口密度は 225 人/km<sup>2</sup>であり、佐賀県人口の約 11% を占めている。

流域内の人口は、横這いで約 10 万人前後で推移している。一方、氾濫区域内の人口は、増加傾向であったが、近年は横ばい状態にある。

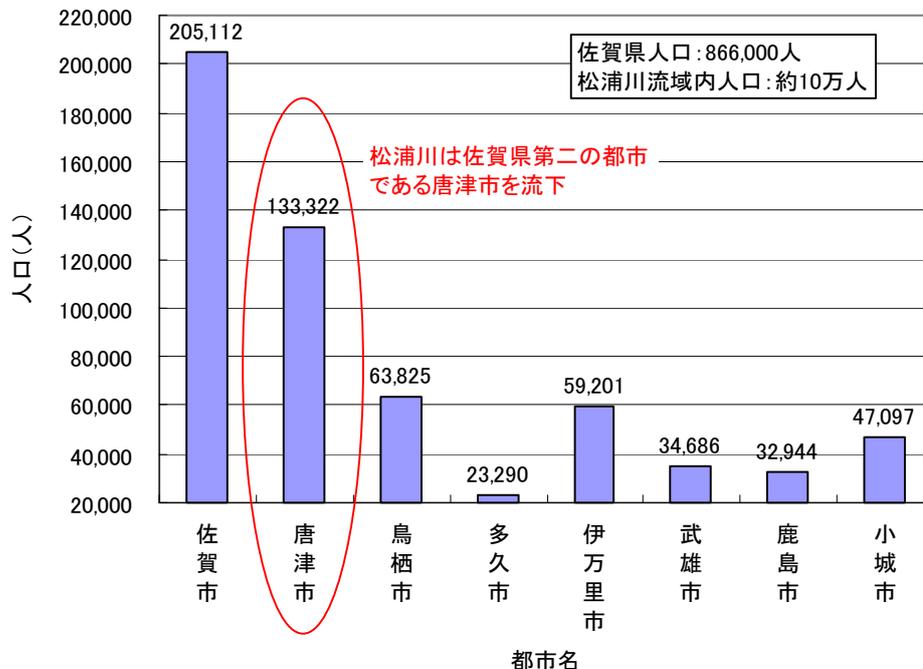


図 3- 3 佐賀県内の主要な都市の人口 (出典: 各市の HP)

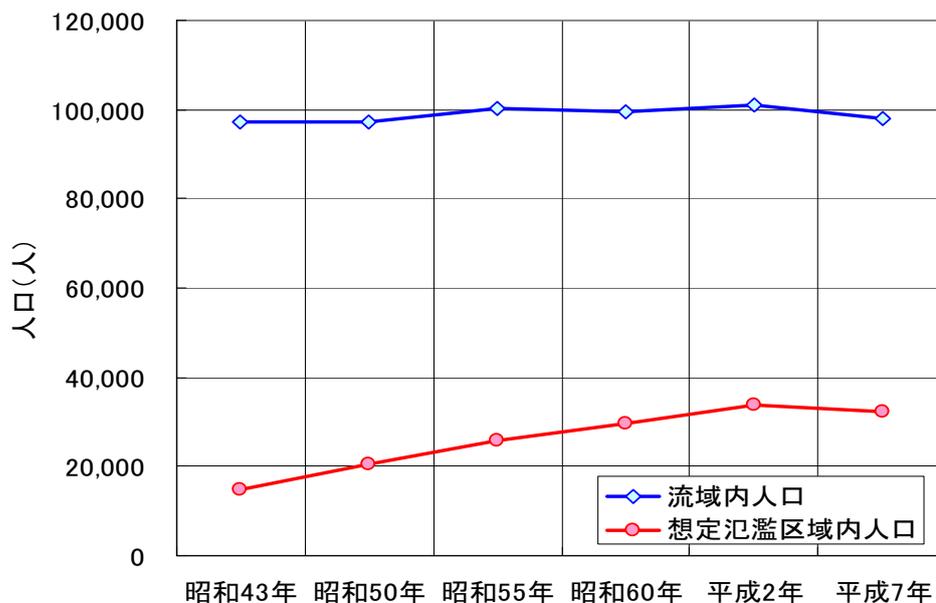


図 3- 4 松浦川流域内および氾濫区域内人口の推移 (出典: 河川現況調査)

### 3 - 3 産業経済

流域内および想定氾濫区域内の産業大分類別従業員数および農業生産額と製造品出荷額の推移を示す。

産業別人口を見ると、一次産業従業者年々減少しているのに対し、二次・三次産業は微増傾向にある。

また、生産額の推移は、農業生産額が横這い状態に対し、製造品出荷額は昭和 60 年をピークに減少傾向にある。

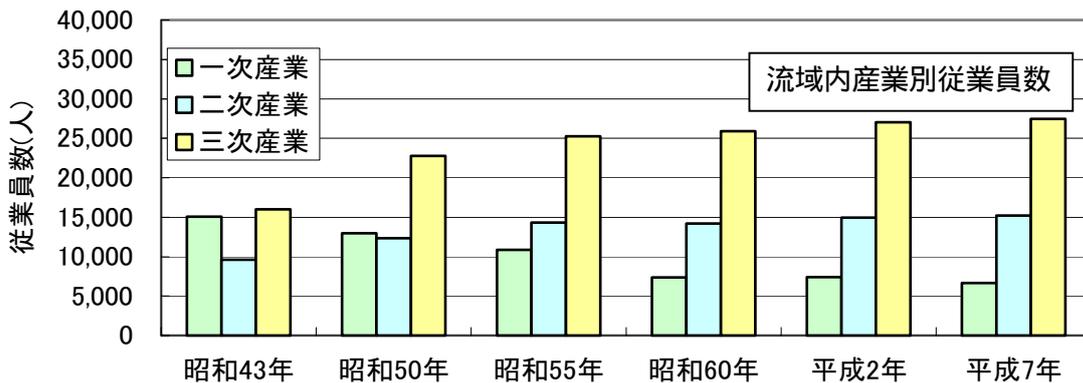


図 3- 5 流域内産業別従業員の推移 (出典：河川現況調査)

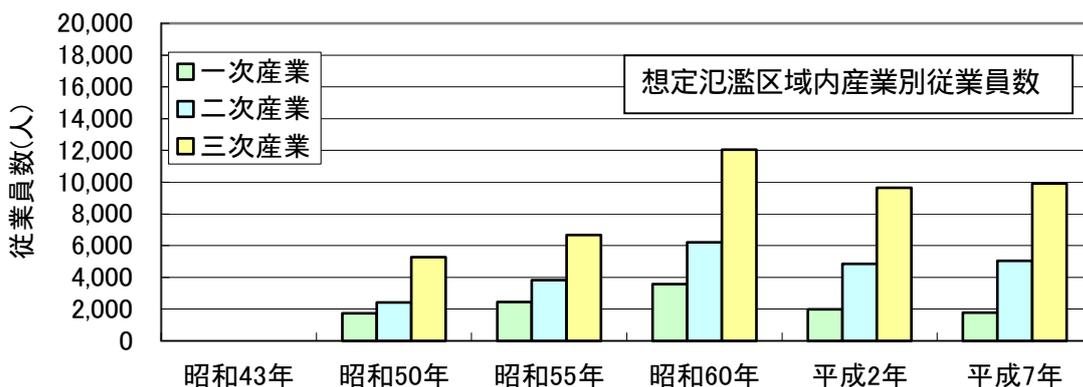
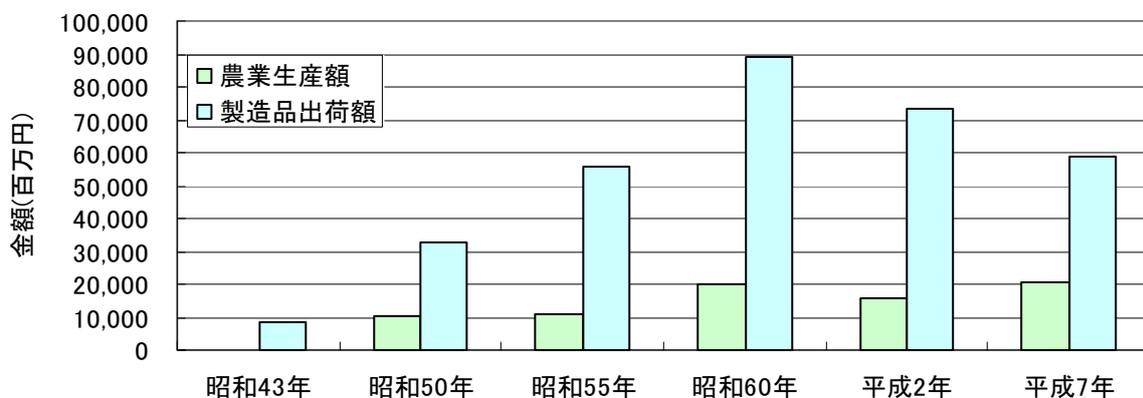


図 3- 6 氾濫区域内産業別従業員の推移 (出典：河川現況調査)



(出典：河川現況調査)

図 3- 7 流域内農業生産額と製造品出荷額の推移

### 3 - 4 交 通

松浦川流域は、国道 35・202・203・204 号線、JR 筑肥線・唐津線・佐世保線などを持ち、唐津市を中心とした交通網の整備がなされている。国道 202 号は支川徳須恵川沿いを、国道 203 号は支川厳木川沿いを併走し、各々伊万里市と唐津市、佐賀市と唐津市を結び、福岡までつながる幹線道路として利用されている。

また現在、西九州自動車道が整備中であり、長崎～唐津～福岡への円滑な交通が期待される。



図 3- 8 松浦川流域の主要交通網図